

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 4 月 11 日現在

機関番号：24506
研究種目：基盤研究(C) (一般)
研究期間：2014～2016
課題番号：26450493
研究課題名(和文) 障害者の実践と緑環境の開示内容との関連に基づいたユニバーサル化情報の主流化要件

研究課題名(英文) Mainstreaming of accessibility information through comparisons between wheelchair users practices and actual conditions of parks public information

研究代表者
美濃 伸之(MINO, NOBUYUKI)
兵庫県立大学・緑環境景観マネジメント研究科・教授

研究者番号：00336835
交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)： 移動障害当事者のバリアフリー情報収集の実態と公園緑地の開示情報の関係性を基にバリアフリー情報の主流化について検討した。移動障害当事者のバリアフリー情報収集においては、公式情報および発信元の属性が既知である場合の口コミ、人づて情報の利用頻度が高く、信頼も厚い一方で、バリアフリーマップ等の特定ユーザグループの情報や属性を伴わない口コミ、人づて情報の利用は限定的であることが明らかとなった。このことと公園緑地における開示内容とを併せて検討した結果、開示している写真においてバリアフリー情報が読み取れるよう配慮すること、属性が明確になるよう工夫した形式でのユーザ発信が有効であると考察された。

研究成果の概要(英文)： In this study the mainstreaming of accessibility information is discussed through comparisons between 74 detailed interviews with wheelchair users about collecting accessibility information and contents of parks public relations. Our results showed the mobility impaired peoples information was very sensitive to official information and the reviews with attribute. On the other hand, reviews without attribute and wheelchair accessibility maps were not referenced. The photo interpretation and public domain of reviews are effective tools for mainstreaming of accessibility information.

研究分野：環境農学(含ランドスケープ科学)

キーワード：公園緑地 障害者 バリアフリー ユニバーサルデザイン 情報 主流化

1. 研究開始当初の背景

少子高齢化の一層の進展とともに、障害者等にも利用しやすい緑環境のユニバーサル化が望まれている。そこでは、景色を楽しむ、身近な自然について学習をするといった野外活動が如何に多様な人々へ偏りなく提供されているかが最大の関心事となる。一方、緑環境においては、地形や環境的な制限を受けることが多く、利用者によっては活動を楽しむことが難しいケースがある。このような場合には、いわゆるユニバーサル化情報の事前提供が有効であることが知られ、現場でのサインやホームページによる関連情報の提供が推奨されてきた。しかしながら、実際の障害当事者等がどのようにユニバーサル化情報収集を実践しているかは必ずしも明らかではなく、既存のユニバーサル化情報の大半は、駐車場や多目的トイレの有無といった施設の仕様を記しただけのものにとどまる傾向が強い。そのため、障害者等にとっては野外活動の利用可否が事前に理解できないことが多く、緑環境を訪れたものの実際には利用が難しい、楽しみが享受できないというケースが少なくない。一方、ユニバーサル化情報は総じて限られた利用者を対象としたものであることが避けられない。そのため、有用性は認識されているものの、情報の適切さを確保し、その定期的な更新を実施することが、労力やコスト、管理者の動機づけの観点から難しい場合が多い。このように、緑環境においては、ユニバーサル化情報の適切な提供が望まれているものの、利用者が当該情報をどのように収集しているかは不明なままである上に、それらが障害者等の専用となってしまう傾向が強いため、持続的な運用が困難な状況にある。

2. 研究の目的

本研究では、先導的障害者によるユニバーサル化情報収集の実態を明らかにし、緑環境の野外活動に関する開示内容との関連性を分析することにより、ユニバーサル化情報が緑環境の開示内容へ主流化するための要件を明らかにする(図1)。

3. 研究の方法

まず、先導的障害者によるバリアフリー情報収集に関して、その情報源と信頼の置き方について重点的に調査を実施した。ここでは、障害を肢体不自由に限定し、52名を対象に質問シートを用いてのヒアリングを実施した。調査項目は、1. 対象属性と外出頻度、その範囲、2. いつ調べるか、その状況、頻度、3. 調べる内容(優先2つ) ①空間、②交通手段、③施設詳細または配置、④活動や参加、⑤環境要因、⑥固有バリア、⑦ユーザ利用、⑧人的ソフト) 4. 情報源の詳細と収集のしやすさ、信頼の置き方 である(表1)。

また、公園緑地における一般的な開示情報については、国営明石海峡公園淡路地区にお

ける広報媒体の内容と量を精査することにより把握した。具体的には、単一の年度における情報発信を網羅するため、ホームページ、季節ちらし、バリアフリーマップ、記者発表、新聞雑誌掲載における内容を把握した。

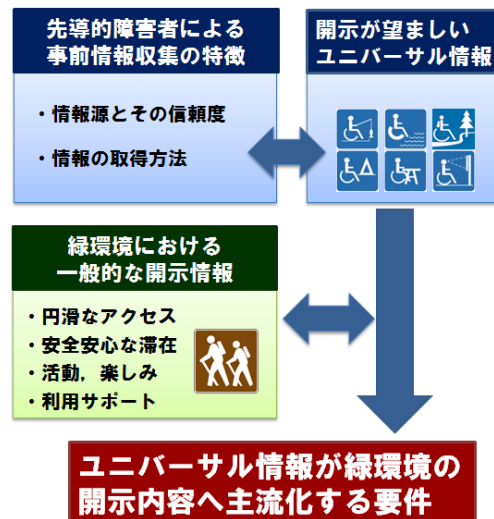


図1. 研究の概略

表1. ヒアリングの具体的内容

内容	情報源と信頼度
①空間	・主体からの情報発信
②交通手段	・利害関係者以外の第三者もしくは口コミサイト
③施設詳細または配置	・ユーザ特性が明確に分かる主体が発信する情報
④活動や参加	・口コミ、人づて、個人サイト(属性既知)
⑤環境要因	・口コミ、人づて、個人サイト(属性未知)
⑥固有バリア	
⑦ユーザ利用	記載3面図 写真 情報収集のしやすさ 信頼の置き方
⑧人的ソフト	

4. 研究成果

(1) 障害当事者による事前情報収集の特徴

対象者属性としては男性 77%女性 23%、30代 40代が中心で、週3~5日ほとんど毎日外出以上が95%以上、外出範囲も海外旅行が20%、近隣他府県23%と広いため、障害当事者の中では積極的に外出をしている層であり、事前情報も事前に8割以上がおおむね調べると回答しているため、調査に適合していると考えられた(図2~4)。

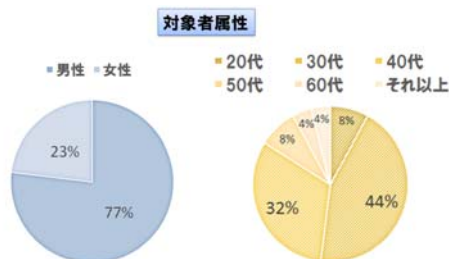


図2. 対象者の性別と年齢

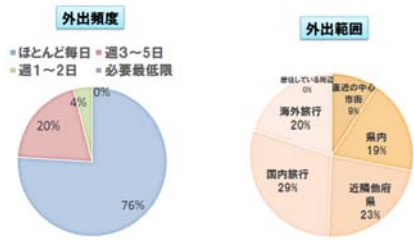


図3. 対象者の外出頻度とその範囲

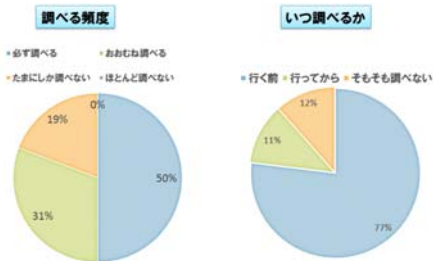


図4. 情報収集の頻度とその時期

まず、優先して調べる内容についてであるが、①空間、②交通手段、③施設詳細または配置、④活動や参加、⑤環境要因、⑥固有バリア、⑦障害利用確認、⑧人的ソフトのうち、2つ選択をさせていただいた結果、②交通手段33%、③施設詳細または配置21%、④活動や参加23%、⑦障害利用確認13%となった。

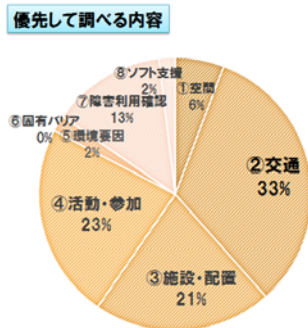


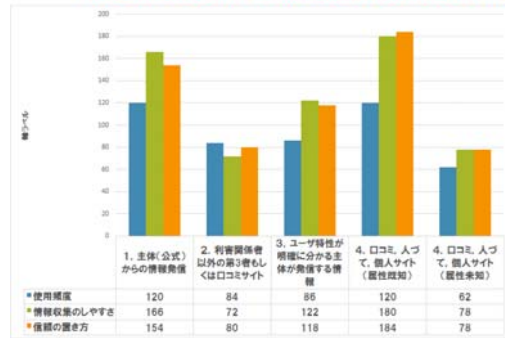
図5. 優先して調べるバリアフリー情報

また、情報源別の使用頻度、収集のしやすさ、信頼の置き方について、1. 主体からの情報発信、2. 利害関係者以外の第三者もしくは口コミサイト、3. ユーザ特性が明確に分かる主体が発信する情報、4. 口コミ、人づて、個人サイト（属性既知）、5. 口コミ、人づて、個人サイト（属性既知）を評価していただいた結果、いずれの項目も、1. 主体からの情報発信、および4. 口コミ、人づて、個人サイト（属性既知）の評価が高く、それらに含まれる内容としては、記載の他に写真の使用頻度が高かった。

情報源別の使用頻度、収集のしやすさ、信頼の置き方

全体

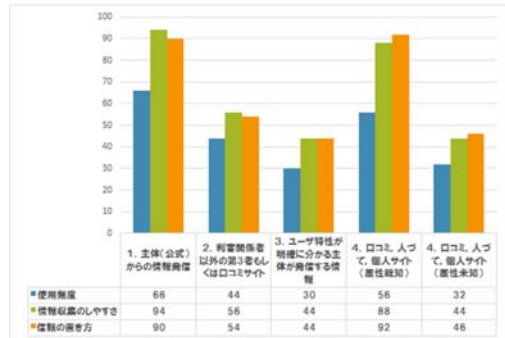
頻度は3段階、収集のしやすさ、信頼の置き方は5段階で評価、その結果を累積



情報源別の使用頻度、収集のしやすさ、信頼の置き方

施設・配置

頻度は3段階、収集のしやすさ、信頼の置き方は5段階で評価、その結果を累積



情報源別の使用頻度、収集のしやすさ、信頼の置き方

活動・参加

頻度は3段階、収集のしやすさ、信頼の置き方は5段階で評価、その結果を累積

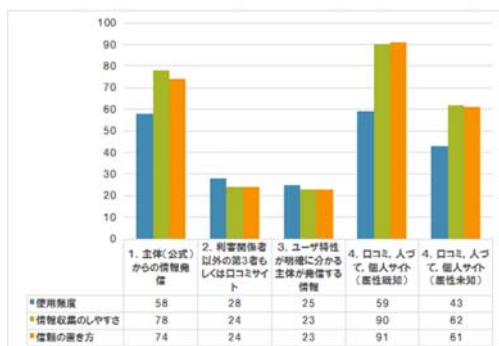


図6. 情報源別の使用頻度、情報収集のしやすさ、信頼の置き方（上から全体、施設・配置、活動・参加）

主体(公式)からの情報発信

口コミ、人づて、個人サイト(属性既知)

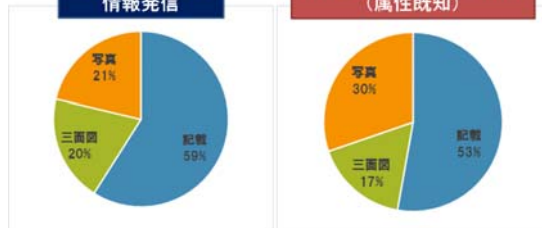
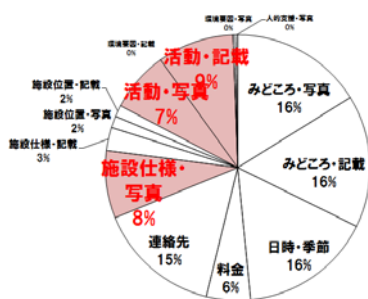


図7. 情報源に含まれる具体内容

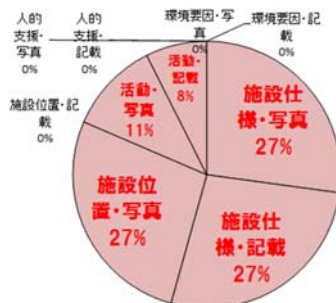
(2) 公園緑地における一般的な開示情報との関係性

まず、記者発表、新聞掲載、季節らしらについては、みどころや日時、連絡先が中心となった情報提供であり、工夫の余地は少ないと考えられた。一方、ホームページにおいては、施設情報が多く掲載されており、信頼の高い公式であることから、記載や写真等の工夫により大いにバリアフリー情報の主流化が期待できると考えられた。また、口コミ情報については、スタッフブログと関連 NPO が発信するブログの2つを調査した結果、前者については、お知らせ、日時、季節などのイベント告知的なものが大半となり、可能性は低いと考えられたが、後者においては、施設仕様に関するもの、活動に関するものが多く含まれ、大きな可能性があると考えられた。

2014年度記者発表(45回分 計58枚)資料の中身概要



公式ホームページ・施設紹介(計22ページ)の中身概要



スタッフブログ(2008-2015: 計790記事)の中身概要

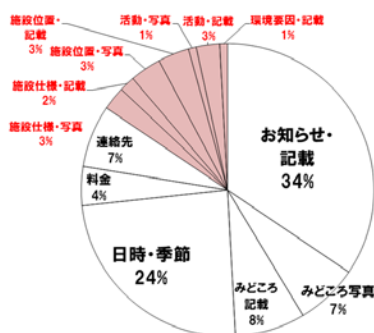
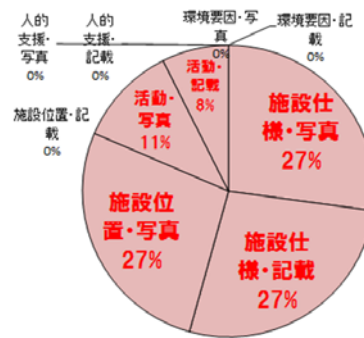


図8. 公園緑地の開示情報において、主流化が見込める項目の割合(赤字部分)

海峡フレンズブログ(2008-2015: 計804記事)の中身概要

公式ホームページ・施設紹介(計22ページ)の中身概要



(3) まとめ

このように、開示している写真においてバリアフリー情報が読み取れるよう配慮すること、属性が明確になるよう工夫した形式でのユーザ発信が有効であると考察された。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計3件)

彦由俊哉、美濃伸之、嶽山洋志 神戸市立相楽園における動画撮影から読み取った公園利用者の行動特性とそのマッピング 造園技術報告集(印刷中)

美濃伸之 ユニバーサルデザインの公園を考える 国立公園 739、3-5 (2015)

美濃伸之 都市公園におけるバリアフリーの現状と今後のあり方 環境情報科学、42(1)、24-28. (2013)

[学会発表](計3件)

美濃伸之 みどりと健康福祉の社会人教育に関するニーズ調査 日本造園学会関西支部、(2016)

嶽山洋志、佐野友梨恵、美濃伸之 幼老複合施設におけるみどりを素材とした幼児と高齢者の交流について. 平成27年度日本都市計画学会関西支部大会研究・事例報告発表要旨集 13. 93-96. (2015)

美濃伸之 みどりの空間におけるバリアフリーの現状と課題(森林保健学会基調講演)(2014)

6. 研究組織

(1)研究代表者

美濃 伸之 (MINO NOBUYUKI)

兵庫県立大学・大学院緑環境景観マネジメント研究科・教授

研究者番号: 00336835

(2)研究分担者

嶽山 洋志 (TAKEYAMA HIROSHI)

兵庫県立大学・大学院緑環境景観マネジメント研究科・准教授

研究者番号: 40344387